

## ダイズ葉焼病の診断



8月中旬の圃場で、上位葉に黄変が広がっていました（上左）。遠目にはハダニ害のようにも見えますが、近づいてみると褐変のまわりに黄変のある斑点が見えます（上右）。褐変部分からは細菌泥が流出してきます（左）。この細菌を培養してコロニーが黄色なら葉焼病、白色なら斑点細菌病という診断になります（防除室だより Vol. 77 参照）。

培養のためには、設備も日数も要しますので、現場でできる診断を考えてみましょう。葉焼病と斑点細菌病の病徴からの識別は困難ですが、病斑に特徴がよく表れていれば、葉焼病と分かる場合があります。



できるだけ軽症の葉を選び、一番小さな斑点が黄色か褐色かを観察します。葉焼病は黄変が先行するので、まず黄色微小斑点を生じます。斑点細菌病では褐点が行先します。光に透かすと観察しやすく、病葉を窓ガラスに貼り付けて透過光で撮影すると、黄色微小斑点を容易に確認できます（上左）。野外では明るいほうに葉をかざして確認します。

病斑の葉裏は少し隆起しています（上中）。これも葉焼病の特徴です。病斑葉表の褐変部分が拡大してくると葉裏の隆起も褐変してカサブタ状になってきます（上右）。

葉焼病初期症状である黄色微小斑点と、葉裏のカサブタ状隆起の二つが確認できれば、葉焼病と診断してよいと考えます。

ただし、症状が拡大して微小斑点が確認できない場合や、葉裏の隆起が不明瞭な場合は、黄色コロニーの確認が必要になります（右）。

